

東日本大震災からの復旧・復興の歩み

集中復興期間

第1期復興・創生期間

第2期復興・創生期間

		避難	まちの復旧・復興				生業の再生			その他
		避難者 (避難者数)	災害廃棄物	インフラ	まちづくり (防災集団移転 区画整理等)	災害公営住宅	農業	水産業	事業者支援	商業施設・ 伝承施設等
集中復興期間	2011年 3月	避難所開設 仮設住宅設置 47万人	居住地付近のがれき撤去	応急復旧 概ね復旧	まちづくり計画の策定 2011.3 岩手県宮古市田老		農地の損壊箇所の復旧・除塩等を実施	被災県の 水産加工 施設再開 55%	仮設店舗などの整備・中小企業等グループ補助金による復旧支援・二重ローン対策等による支援 補助金 被支援者数 316者 仮設施設の入居事業者数 1,360事業者 補助金 被支援者数 (累計) 3,289者	2011.7 おながわコンテナ村商店街 (宮城県女川町)
	2012年 3月	仮設住宅関連の環境整備 34万人	仮置場へ運搬 がれきの処理・処分	本復旧・復興	防災集団移転促進事業の計画策定					
	2013年 3月	自立再建、災害公営住宅等での再建 31.3万人								
	2014年 3月	26.4万人	がれき処理 岩手県・宮城県 100%		民間住宅等用地の整備	災害公営住宅の建設開始 2014.10 宮城県多賀城市災害公営住宅	営農再開 可能面積 63%			
	2015年 3月	22.5万人						被災県の 水産加工 施設再開 83%		
	2016年 3月	17.1万人								
第1期復興・創生期間	2017年 3月	11.9万人	がれき処理 福島県 100%					被災県の 水産加工 施設再開 83%		
	2018年 3月	7.1万人								
	2019年 3月	5.1万人								
	2020年 3月	4.7万人								
	2021年 3月	4.1万人								
	2022年 3月	3.7万人								
第2期復興・創生期間	2023年 3月	3.1万人								
	2024年 3月	2.9万人 (うち、福島県 避難者数:2.6万人)								



# 都内での支援活動

東京都は、東日本大震災の風化防止や風評払拭、避難者支援などの取組を都内で進めてきました。ここでは、その一例を紹介します。

## 東日本大震災風化防止イベント

東北4県（青森県、岩手県、宮城県、福島県）と東京都で実行委員会を組織し、例年3月に開催しています。

被災地の復興状況、伝承の取組、各県の魅力等を情報発信しています。



東日本大震災風化防止イベント/令和6年3月

## ふるさと市

岩手県、宮城県、福島県の水産物や特産品、その場で楽しめる飲食メニューを販売するイベントを開催し、被災地産品の魅力を広く発信しています。



東北3県ふるさと市/令和6年5月



復興応援ふるさと市/令和6年11月

## 動画「岩手・宮城・福島の水産 総力鮮！」 ～今、あなたの“うまい！”が力になる～



都民の皆さんが被災地の水産物を食べたり、現地を訪れたりするきっかけにしてみらおうと、3本のPR動画を制作し、様々な媒体で放映しています。



動画はこちらから、  
ぜひご覧ください！

## ふくしま避難者交流会

東京都では、今もなお被災県から避難した多くの方が生活しています。都内近郊の避難者同士の交流や避難元との交流の機会を提供するため、福島県等と連携して開催しています。



ふくしま避難者交流会/令和6年10月



# 被災地の復旧・復興に向けて働く東京都の職員 (2011～2024)

延べ3万人を超える職員が、被災地の様々な分野で復旧・復興支援に取り組んできました。

## 2011 年度



南三陸町、石巻市へ支援物資を届ける様子  
(宮城県仙台市)

## 2012 年度



道路の被災箇所の調査  
(岩手県釜石市)

## 2013 年度



境界立会をしている都職員  
(宮城県山元町)

## 2014 年度



福島県の商品を販売  
(秋葉原駅構内:ふくしま応援産直フェア)

## 2015 年度



ドローンを使用した放射線のモニタリング調査  
(福島県広野町)

## 2016 年度



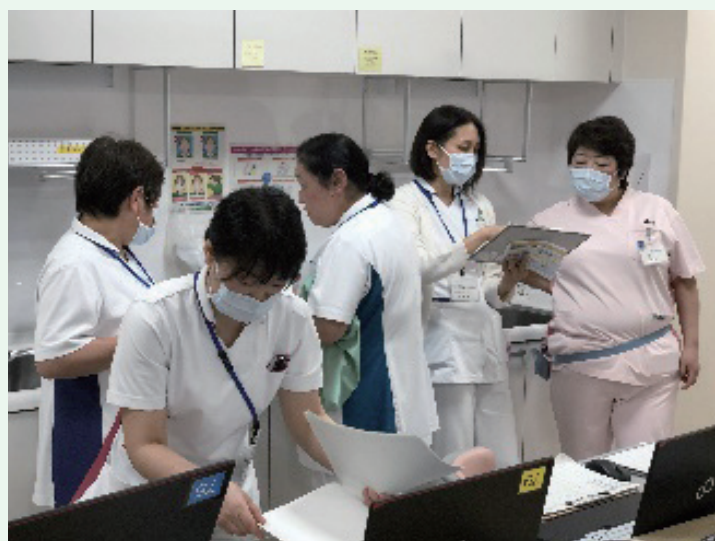
宮城県の用地取得に取り組んだ職員  
(宮城県: 仙台土木事務所)

## 2017 年度



宮城県の水道工事に取り組む都職員  
(宮城県塩竈市)

## 2018 年度



福島県の看護支援に取り組む都職員  
(福島県: ふたば医療センター)

## 2019 年度



鵜住居水門及び海岸防潮堤の復旧  
(岩手県釜石市)

## 2020 年度



整備したサツマイモ貯蔵施設の現地確認  
(福島県檜葉町)

## 2021 年度



補助金交付対象者の完了検査に立ち会う都職員  
(岩手県山田町の水産加工会社)

## 2022 年度



雨水幹線管渠の復興工事現場で市民見学会を実施  
(宮城県石巻市)

## 2023 年度



首都圏飲食店での福島県産米使用  
PR イベントを実施  
(東京駅構内: 会津コシヒカリ新米プレゼントキャンペーン)

## 2024 年度



創業支援補助金を PR  
(福島県: ふくしま再生可能エネルギー産業フェア (REIF ふくしま 2024))

2011 年3月～2016 年3月：  
集中復興期間

2016 年4月～2021 年3月：  
第1期復興・創生期間

2021 年4月～2026 年3月：  
第2期復興・創生期間



# 高台の新しいまち (岩手県宮古市)

高台の新たなまちには、保育所や駐在所、診療所等の公的施設も整備しています。このほか市内では、被災した市街地の道路、公園等の整備やかさ上げ工事を行うだけでなく、住宅用地や産業用地の集積化も実施されました。



宮古市田老地区 震災前の様子  
(平成 15 年頃撮影)



宮古市田老地区 震災直後の様子  
(平成 23 年頃撮影)



宮古市田老地区  
(令和6年1月撮影)

高台に移転した新たなまちの様子  
※ 別アングルから撮影



宮古市田老地区・高台の三王団地  
(令和6年1月撮影)



# 海岸沿いから高台への住宅移転 (宮城県南三陸町)

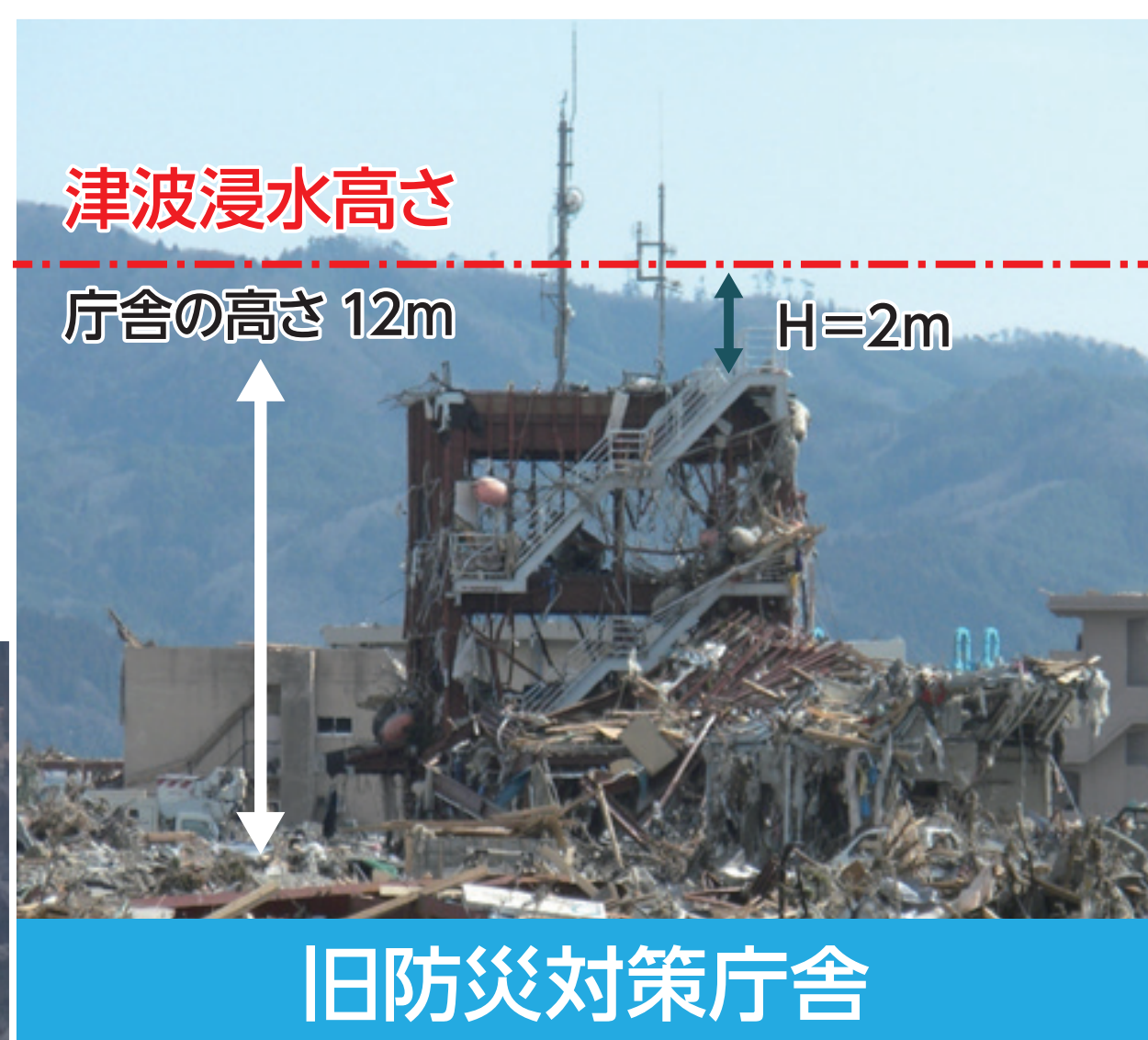
南三陸町の中心市街地には、防災対策庁舎などの公共機関や多数の住宅がありました。震災では3階建ての防災庁舎を超える大きな津波に見舞われ、多くの人命が失われるとともにまちも損壊しました。復興にあたっては、中心市街地部分はかさ上げ工事を行い、元の居住地は安全な背後の高台に移転する「職住分離」のまちづくりを進めています。



南三陸町志津川地区 震災前の様子  
(平成13年5月撮影)



南三陸町志津川地区 震災直後の様子(平成23年3月撮影)  
提供：一般社団法人東北地域づくり協会



旧防災対策庁舎

3階建ての建物の屋上を2mも超える津波が押し寄せました。現在は、県が震災遺構として20年間（2031年まで）維持管理し、町が周辺を復興祈念公園としています。



南三陸町志津川地区(令和2年3月撮影)  
提供：アジア航測(株)



# 海岸沿いの防災緑地 (福島県広野町)

海岸防潮堤や県道のかさ上げ、防災緑地の整備をするとともに、海岸から内陸部に向かう避難路の確保などを通じて、総合的に安全性を確保しています。JR 広野駅東側（海側）のエリアを「復興ゾーン」として土地区画整理事業を実施しており、平成29年10月には「広野駅東ニュータウン」と名付けられました。ニュータウン内にはテナントビルである広野みらいオフィスのほか、ホテルも建設されています。



震災直後の JR 広野駅東側の様子



復旧・復興工事の様子(平成 29 年4月撮影)



広野町浅見川地区(令和6年5月撮影)



# オール福島で推進！（福島イノベーション・コースト構想）

東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業回復のために、当該地域の新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。「廃炉」、「ロボット・ドローン」、「エネルギー・環境・リサイクル」、「農林水産業」、「医療関連」、「航空宇宙」の6つの主要プロジェクトの実現へ向け、様々な環境整備に取り組んでいます。



# 「ロボット・ドローン」事業

南相馬市にある「福島ロボットテストフィールド」は、陸・海・空の3つのフィールドロボットの一大開発実証拠点です。約50ヘクタールの敷地内が4つのエリアで構成されています。